

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	2673200263
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会
事業所名	洛和グループホーム京田辺
所在地	京都府京田辺市興戸郡塚57-3 (電 話)0774-68-1266

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成20年11月14日
評価確定日	平成21年1月7日

【情報提供票より】(平成 20 年 10 月 5 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 25 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 5.6 人	

(2)建物概要

建物構造	木造平屋立 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	28,000 円	
敷 金	有() 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	400 円	昼食	470 円
	夕食	700 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1670 円			

(4)利用者の概要(10月5日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	80 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	寺島クリニック・せきにし歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

同志社大学のキャンパスの傍に位置する当該ホームは、新鮮な空気と緑に囲まれた宅地造成中の住宅地にあります。玄関の周りには、利用者と職員と一緒に作られた花が色とりどりに咲き、裏庭には手入れされた、竹藪や畑があり自然に囲まれたのどかなホームです。「楽しく共に支えあい生きる」という理念を掲げ、利用者の出来ることを見守りながら支援し、家事やレクリエーション、外出、ボランティアとの交流など一人ひとりにあった生活を支援されています。利用者はゆったりとした時間の流れの中で和やかに過ごされ、楽しく共に支えあい過ごす事ができるように、職員の和を大切にケアに取り組まれています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価から地域とのつきあい・家族への報告など改善に向けて出来ることから取り組まれました。また、ホーム内のインテリアを全部取り替えたり、職員で話し合い、花を生けるなどをして緑を増やされました。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価の意義を職員に説明し、自己評価表の項目ごとに分担して作成し、その後職員全員で話し合いながらまとめています。今回の評価を基に職員で話し合う予定です。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催され、家族、自治会長、地域住民、地域包括支援センター、ホーム管理者、職員等が参加しています。職員紹介、入居者近況報告、行事報告、情報交換などがおこなわれ、サービスの質の向上に向けて質疑、要望、提案などについて話し合われています。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の来訪時に要望等を伺うとともに、家族へのアンケートを実施しその結果から家族の意向を把握し、得られた課題の解決に向けて話し合い、日々のケアに反映させています。家族会はありませんが行事がある時などに、家族同士が話し合える機会を持つ事ができるように配慮しています。
重点項目 ⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しています。「こども100当番の家」にも登録し協力体制を作り、近隣の方に出会うと挨拶するなど積極的に地域との交流を図っています。地域から情報を頂き、地域の夏祭りに参加したり、神輿が回って来たりしています。興戸地区の集いに参加し、ホームより介護について話しをしたり、午後よりゲートボールに参加する等の交流にも努めています。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「楽しく共に支えあい生きる」という理念を掲げ、地域の中でその人らしく暮らし続けるために、職員の和を大切に、理念の意識化を図っています。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の意識化を図るため玄関や事務所に掲示し、日々確認し周知を図っています。利用者が楽しく共に支えあい生きるために利用者の意向を把握し、職員の連携を図りケアを実践しています。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しています。「こども100当番の家」にも登録し協力体制を作り、近隣の方に出会うと挨拶するなど積極的に地域との交流を図っています。地域から情報を頂き、地域の夏祭りに参加したり、神輿が回って来たりしています。興戸地区の集いに参加し、ホームより介護について話しをしたり、午後よりゲートボールに参加する等の交流にも努めています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価から地域とのつきあい・家族への報告など改善に向けて出来ることから取組まれました。また、ホーム内のインテリアを全部取り替えたり、職員で話し合い、花を生けるなどをして緑を増やしました。今回は自己評価の意義を職員に説明し、自己評価表の項目ごとに分担して作成し、その後職員全員で話し合いまとめています。今回の評価を基に職員で話し合う予定です。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催され、家族、自治会長、地域住民、地域包括支援センター、ホーム管理者、職員等が参加しています。職員紹介、入居者近況報告、行事報告、情報交換などがおこなわれ、サービスの質の向上に向けて質疑、要望、提案などについて話し合われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に1回京田辺市グループホームの会議が開催され、参加されています。市役所、地域包括職員も参加され交流を図っています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の暮らしぶりや連絡事項を記載した一筆箋を介護チェックシート・運営推進会議議事録・金銭管理報告書と一緒に送付しています。状況に変化があれば、随時電話にて連絡しています。来訪された家族には、毎月の書類を手渡すとともに暮らしぶりを伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の来訪時に要望等を伺うとともに、家族へのアンケートを実施しその結果から家族の意向を把握し、得られた課題の解決に向けて話し合い、日々のケアに反映させています。家族会はありませんが行事がある時などに、家族同士が話しあえる機会を持つ事ができるように配慮しています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職の場合は、お別れ会を開催して、職員が利用者一人ひとりに挨拶をしています。新しい職員とは、1ヶ月をかけて勤務体制に配慮しながら馴染みの関係づくりに努めています。また、年に2回、自己評価を提出し自己評価を基に管理者と職員がヒアリングを実施し離職を減らす取り組みがなされています。また、一週間の連続休暇取得等職員のストレス解消にも法人全体で取り組んでいます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で年間研修が計画され受講する体制が作られています。また、外部研修等は、希望があれば受講出来るように勤務体制に配慮しています。グループホーム内部研修をカンファレンスの機会を利用して行い、訪問看護師から医療面について職員全員が学べるように工夫するなど研鑽に努めています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	京田辺市のグループホーム3ヶ所が2ヶ月に1回、会議を開催し、勉強会や情報交換などを行い交流を図りサービスの質の向上に取り組まれています。相互訪問研修は、現在中断されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族等の面談で、家族の意向を聞き、馴染みながら利用できるように話し合いを持っています。体験入所はしていませんが空きの部屋があれば短期入所利用が可能となっています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活歴より、出来る事、出来ない事を把握しながら、利用者のできる事を引出しています。近隣の方から頂いた野菜を使って職員と一緒に料理を作ったり、後片付けをしたり、また、月に1回、開かれるフラワーアレンジメントで花を楽しく生けたりと、暮らしの中で共に過ごし支えあう関係を築いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し、生活歴を把握して一人一人の思いや意向を把握するとともに、家族からも情報を得ています。また、思いや意向を伝えることが困難な利用者は、暮らしの中での言葉や表情、態度などから思いや意向を把握するように努め支援しています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を活用し、日頃より職員から細かな情報を得て、ホーム独自の24時間シートやアセスメント分析シートに記載すると共に、定期的なアンケートや家族等の訪問時に意向を伺い情報を把握しています。3ヶ月に1回、カンファレンスの要点シートにまとめカンファレンスを開催し、話し合いにより介護計画を作成しています。往診医からは、その都度、健康面について相談し、共有を図りながら介護計画に反映させています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ISO管理表で、介護計画を管理しています。3ヶ月に1回、カンファレンス要点シートで見直し、分析をおこない、変化があればカンファレンスを開催して、随時介護計画の見直しを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が対応出来ない時は、かかりつけ医の受診支援をおこなっています。訪問美容もありますが、希望する方は美容院を利用しています。また、利用者の希望する京都検定受験の同行など入居者や家族の希望に柔軟に対応しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医について話し合い家族の意向を尊重した受診の支援しています。協力医の月2回の往診や訪問歯科の月1回の往診など適切な医療を受けられるように支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、看取り指針について説明し同意を得ています。ホームで、医療と職員体制の連携が図れ、家族の協力のもとで、条件が整えば終末期に向けた支援が可能であることを説明しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入社時に研修でプライバシー保護について学習し意識の向上を図っています。日常のケアの中でプライバシーを損ねる言葉づかいや対応などに気付いた時は、その都度話し合い注意を促しています。記録などの個人情報は、事務所の鍵の掛かる書庫に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活の流れはありますが、一人ひとりの生活ペースを把握し、利用者の希望に沿った支援をしています。起床・就寝も自由となっています。食事に関しては、利用者が揃ってから一緒に食事の時間としていますが、体調等に合わせて食事を摂って頂いています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を組み入れ、職員と一緒に一週間分の献立を立て、楽しい食事となるように配慮しています。畑で取れた野菜や近隣の方から頂いた野菜などを一緒に調理し、旬の食材を使った食事を楽しんだり、職員と利用者が同じものを同じテーブルを囲んで楽しく食事をしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、その日に希望を聞いて支援しています。希望されると9時～21時まで毎日でも入浴が可能となっています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の持っている力を引き出せるよう、一人ひとりにあった支援をしています。調理や後片付け、洗濯たみ、花の水やりなどの役割を支援し、また、ボランティアによるアコーディオン演奏や腹話術等の楽しみごとや、月に1回開かれるフラワーアレンジメント教室への参加などにも支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩の途中に、自販機でコーヒーを買いに行く事を楽しみにされている利用者の同行や、近くの喫茶店に行ったり、ドライブを楽しんだり、散歩のみならず希望に添った外出支援に努めています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、鍵を掛けずに過ごしていますが、夜間は防犯上、施錠しています。安全確保のため玄関にセンサーを設置しています。外出希望のある利用者には、職員が対応して外出し、納得して戻ってこられるように支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署と協力のもと避難訓練を実施しています。ホーム独自でも、2ヶ月に1回避難訓練を実施しています。今後、地域と合同での避難訓練を検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎回記録し、必要な方のみ水分摂取量を記録し、水分を摂っていただけるように支援しています。利用者の摂取状況を職員全員が把握しています。毎日、検食簿を活用し栄養摂取の把握に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	畑で咲いた季節の花や観葉植物、フラワーアレンジメント教室で生けた色鮮やかな花などが玄関やリビングに置かれ癒しの空間となっています。リビングにある和室では、懐かしいミニ筆筒や卓袱台があり腰を下ろしてゆったりと過ごせる場所となっています。壁面には、写真や利用者の作品が飾られていたり、皆が集えるようにテレビの前にソファが設置されるなど居心地良く過ごせるように工夫されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室の入口は、家族が思いをこめて作った表札で、ほのぼのとした居室入口となっています。居室は、洋室は7室、和室が2室あり、個々の生活に合わせて布団やベットなどが選択され、また、使い慣れた家具や好みのものを持参して居心地よく過ごせるように工夫されています。		